

事業名	令和4年度漁海況予測システム構築事業（2）
予算区分	地方創生推進交付金
事業実施期間	令和2～4年
担当者	安藤大輔、嵐俊右
共同研究機関等	

<目的>

水産研究課は、平成29年に「リアルタイム水質情報配信システム(<https://www.tokusuiken.jp/>)」を開発し、令和4年現在、本県沿岸15地点の水温、塩分および栄養塩濃度等の水質情報を一般公開している。公開した水質情報は沿岸の藻類養殖業等で活用されているが、漁業者からは沖合の水温情報に対する要望も寄せられていた。

そこで、徳島港と和歌山港を往復する「フェリーあい(南海フェリー株式会社所属)」が測定しているエンジン冷却用海水の水温に着目し、そのデータを収集して情報配信する機能を新たに実装した。

<方法>

水温データを出力するため、「フェリーあい」のエンジンモニタリングシステムを改修した。出力したデータは、1分毎に携帯電話通信網(4G)を使用して水温データと位置情報を水産研究課のサーバーへ転送した。

配信ページの仕様は、航路を経度0.05°毎に区分し、それぞれの区間内で最初に受信した地点の水温情報を地図上にプロットし、ホームページで航路上12地点の温情報を表示可能なものとした。

<結果>

播磨灘から太平洋にかけて南北に並ぶ観測点に、紀伊水道の東西に並ぶ観測点が加わり、紀伊水道では広範囲の表層水温をリアルタイムで把握することが可能になった。

<今後の課題>

水温情報は概ね表層水温を反映しているが、エンジン冷却用海水の取水深度がフェリーの喫水で変化するため、どの深さの水温であるかを正確に知ることはできない。試験研究用途や漁業種類によっては深度も重要な情報となるため、深度情報の追加が課題である。

<謝辞>

本事業の実施にあたり、南海フェリー株式会社の皆様から多大なるご協力をいただいております。ここに謝辞を表します。